

木津川に侵入したコクチバスの食性

○山田 卓実・小西 雅樹・羽多 宏彰・宮西 萌（近畿大学農学部）
川瀬 成吾（大阪府立環境農林水産総合研究所・琵琶湖博物館）
細谷 和海（近畿大学農学部）

【背景】

コクチバス *Micropterus dolomieu* はサンフィッシュ科 Centrarchidae に分類される北米原産の淡水魚で、現在、我が国ではオオクチバス *M. salmoides* と同じく釣りの対象種として人気がある。本種は 1925 年、神奈川県芦ノ湖にオオクチバスとともに移殖されたが定着しなかった。しかしその後 1991 年に長野県野尻湖で初確認されて以来、さまざまな河川や湖に拡散し始めている。本種はオオクチバスに比べて冷水や流水を好むため、主に東北地方や長野県など比較的寒冷地のみで確認されていたが、近年になって、淀川水系木津川で本種の侵入が記録された。

木津川は三重県伊賀市青山高原を源流とし、下流で宇治川、桂川と合流し、大阪湾に注ぐ淀川水系の主要河川である。木津川は堰がほとんどなく、降雨時の水位変動も大きいいため定期的に河川氾濫が起きる良好な河川環境が残っており、シロヒレタビラ *Acheilognathus tabira tabira* やヨドゼゼラ *Biwia yodoensis*、カワヒガイ *Sarcocheilichthys variegatus variegatus* をはじめとする希少魚の重要な生息地であり、在来淡水魚類のホットスポットといえる。しかし、本種の侵入により、これらの在来生態系に甚大な影響を与えることが懸念される。

木津川における本種による在来種への影響を明らかにするには、生態学的情報の収集、とりわけ食性を解明し、最も懸念される食害の実態を把握することが必要不可欠である。そこで、本研究では本種の胃内容物を分析する。

【方法】

コクチバスの採集は 2015 年 4 月から 11 月にかけて行なった。採集した個体は腹腔内にホルマリン原液を注射後、氷に浸漬して持ち帰り、全長 TL (mm)、標準体長 SL (mm)、体重 (g) を測定した。その後、解剖して胃内容物を摘出した後、胃内容物重量 (g) を測定した。得られた胃内容物は必要に応じてアリザリンレッドで染色を施した後に双眼実体顕微鏡を用いて可能な限り低位の分類群まで同定し、個体数および湿重量を計数・計量した。また、コクチバスが利用しうる餌資源の調査のため、魚類相調査も並行して実施した。

【結果】

採集調査の結果、成魚 40 個体（2014 年度の調査で採集した 30 個体を含む）、若魚 21 個体が採集された。これらを解剖したところ、胃内容物は魚類が多く、次いで甲殻類が多く出現した。しかし、成魚は釣りで採集したためか、空胃個体が目立った。若魚は 18 個体から魚類、水生昆虫が出現した。コクチバスの若魚に関する報告は不足しているが、特に生活場所の重なるコイ科仔稚魚が多く食害されていることが明らかとなった。そのため、コクチバスはコイ科魚類の成魚のみならず仔稚魚期においても大きな脅威になると考えられた。